# 2019 Annual Report

一般社団法人 Colabo ｜ 2019年 活動報告書

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
中高生世代を中心とする
10代女性を支える活動を行っています。

Colabo

## 私たちの想い（設立趣意書）

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、学校でも理解しようとしてくれる大人と出会えず、街をさまよっていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。
ファーストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少年少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、性的搾取への斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。
友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。
そんな私に声をかけてくるのは、買春者か、危険な仕事か性的搾取に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから十数年が経ち、私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少年少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「一緒に考えてくれる人がいたら」「信じてくれる人がいたら」という想いが込められているのではないでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。

2013年3月
法人化に際して

一般社団法人Colabo
代表 仁藤夢乃

## 2019年度　活動概要

### ■相談事業

- ・利用者数 ―― 591名
- ・面談 ―― 1,560回
- ・同行支援 ―― 115回
- ・他機関連携 ―― 135件

### ■夜間巡回・アウトリーチ

- ・活動回数 ―― 33回
- ・声掛け人数 ―― 3,241名
- ・バスカフェ利用者数 ―― 593名

### ■食事・物品提供

- ・食事提供 ―― 1,364食
- ・物品提供 ―― 811件以上
- ・『難民高校生』 ―― 27冊

### ■一時保護・宿泊支援

一時シェルター

- ・利用者・日中利用件数 ―― 36名、689件
- ・宿泊者・宿泊数 ―― 15名、30泊

中長期シェルター（一時保護利用）

- ・利用者・宿泊日数 ―― 11名、704泊

ホテル等シェルター以外での緊急支援　5名、15泊

### ■自立支援

- ・シェアハウス入居者 ―― 13名
- ・就労支援 ―― 70回

### ■サポートグループTsubomi

- ・参加者・活動回数 ―― 29名（のべ361名）、144回
- ・企画展「私たちは『買われた』展」　5箇所で開催

### ■啓発事業

- ・講演会 ―― 25回、2,751名参加
- ・街歩き研修 ―― 15回、124名参加

## 目次


■私たちの想い ―― 1
■2019年度活動概要 ―― 2
■相談事業 ―― 3
相談を受けた少女への対応
■アウトリーチ事業「TsubomiCafe」 ―― 5
■食事・物品提供 ―― 6
■緊急時の保護・宿泊支援 ―― 7
■自立支援（シェアハウス・就労支援） ―― 8
■サポートグループ「Tsubomi」 ―― 9
企画展「私たちは『買われた』展」
■啓発事業 ―― 11
夜の街歩きスタディーツアー
■メディア掲載 ―― 13
■会計報告 ―― 14
■会員・寄付・物品応援 ―― 15
■ご支援のお願い ―― 16
■応援メッセージ ―― 17

# 相談事業

夜の街を巡回し、声をかけて繋がった少女や、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

相談者数 591 名

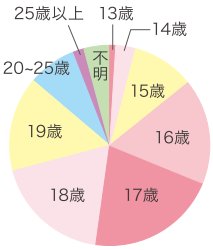
2018年度にバスカフェを始め、アウトリーチを強化したことから相談者数が3倍以上に増えました。2020年3月に新型コロナウィルス感染症の影響が出始めてから、相談がさらに急増し、緊急的な対応も行いました。SNSで「家出」に関する投稿をする少女たちへ、匿名の女性たちが「知らない男のところに泊まるくらいなら、Colaboに連絡してみたら？」と案内してくれていることから繋がった少女たちもいます。

## 利用者の年齢と状況

相談者数 ―― 591名
・本人からの相談 ―― 527名（うち、新規437名、男性6名）
・本人以外からの相談 ―― 64名（親類10件、友人・知人10件、学校5件、支援者などその他39件）

### ■相談者の年齢（本人からの相談）

| | |
|---|---|
| 13歳 | 5名 |
| 14歳 | 16名 |
| 15歳 | 54名 |
| 16歳 | 89名 |
| 17歳 | 111名 |
| 18歳 | 99名 |
| 19歳 | 80名 |
| 20~25歳 | 42名 |
| 25歳以上 | 9名 |
| 不明 | 22名 |




### ■出会ったきっかけ（19年度新規相談者）

| | |
|---|---|
| ・SNSを通して | 91名 |
| ・街で声をかけられて | 148名 |
| ・友人の紹介 | 60名 |
| ・支援者・知人の紹介 | 58名 |
| ・メディアを通して | 23名 |
| ・授業や講演 | 10名 |
| ・仁藤の著書を読んで | 3名 |
| ・HPをみて | 4名 |
| ・その他（「私たちは『買われた』展」等） | 40名 |

### ■居住地（19年度新規相談者）

相談は全国から寄せられ、北海道から沖縄まで、各地の少女たちと出会い、関わっています。

### ■相談内容

**家族のこと**
・家族関係
・虐待（身体的/精神的/経済的/性的虐待/ネグレクト）
・家に帰りたくない
・家を出たい
・家出
・家を追い出された
・居所なし
・生活困窮
・子育て
・親の自死

**学校のこと**
・高校中退
・進路
・友人関係
・不登校
・いじめ
・教員について

**性のこと**
・性暴力被害
・性的搾取被害
・JKビジネス
・恋人からのDV
・妊娠・中絶
・性感染症
・セクシャリティ

**その他**
・就労相談
・労働相談
・公的機関の対応について
・借金・金銭トラブル
・精神疾患
・自傷行為
・死にたい
・薬物等への依存
・発達障害
・知的障害
・新型コロナウィルスの影響による虐待・生活困窮

相談は、虐待に関するものと、性暴力や性的搾取の被害についてが多くあります。過去に児童福祉などの公的支援につながったときに、適切に対応されなかったことから不信感を抱く少女たちとの出会いも続いています。相談者に「児童相談所と関わったことはある？」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子を見せたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね？」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

生活が困窮し、家庭が福祉に繋がっていながらも虐待を受け、うわばきや文具を親に買ってもらえない、給食費や修学旅行費が払えないなどの理由から性売買に関わっていた中高生との出会いや、「親の都合で学校に行かせてもらえない」、親に怒られるから「病院に行けない」という相談や「ガスや電気が止まっている」「親が家に帰ってこなくなった」「家に帰ったら自分の荷物が全部捨てられていて、家にも入れなくなっていた」などの相談も複数ありました。

安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、危険に巻き込まれた少女たちと出会っています。少女の紹介などを通して男子と出会い、関わることもあります。少女は性的搾取の被害にあったり、性的に商品化され消費されることが多くありますが、少年は犯罪に加担したり、搾取する側として使われたりすることがあります。

安全を手に入れてからもトラウマや精神的な不安と付き合いながら生きていかなければならないことも多く、一時的、緊急的な支援だけではなく、医療や福祉と連携しながら、中長期的なかかわりや暮らしづくりを支える活動の必要性を感じています。しかし、不安定な状態であればあるほど、次の住まいや、連携できる支援機関や病院等が見つからないことが多く、受け皿が少ない現実に直面しています。

# 少女たちと共に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。
「あなたはどうしたい？」と問われても、それがわからない状態にあることも多いです。
暴力や支配の関係性の中にいたり、「今日をどう生きるか」に精一杯な状況では、
これからのことを考える余裕もありません。
見返りを求められることなく、安全に過ごせる場所で、落ち着いて考えられる時間や環境があることや、
一緒に状況を整理する人との信頼関係があることで、これからのことを考えることができます。
私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、
困った時に思い浮かぶ顔になれる関係を築きたいと考えています。
ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。
だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、
共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

## 相談を受けた少女への対応

### ■面談：1,560回

- 本人との面談 ―― 1,484回
- その他関係者との面談 ―― 76回

### ■同行支援：115件

- 役所 ―― 21件
- 病院 ―― 19件
- 児童相談所 ―― 17件
- 学校 ―― 7件
- 家庭訪問 ―― 6件
- 警察 ―― 6件
- 弁護士相談 ―― 5件
- 職場 ―― 5件
- 労働組合 ―― 4件
- 各種手続き ―― 4件
- その他機関への相談 ―― 4件
- ハローワーク ―― 3件
- 保護司面談 ―― 3件
- 学習支援団体 ―― 3件
- 引っ越し ―― 7件
- 新居内見 ―― 1件

### ■他機関連携：135件

■公的機関 ―― 75件
- 学校 ―― 12件
- 役所 ―― 31件
- 児童相談所 ―― 23件
- 少年院 ―― 2件
- 警察 ―― 7件
- 女性相談所 ―― 5件

■民間団体等 ―― 56件
- 子ども支援団体 ―― 14件
- 病院 ―― 12件
- 弁護士 ―― 8件
- 児童養護施設 ―― 6件
- 学習支援団体 ―― 5件
- 労働組合 ―― 4件
- 性暴力被害者支援団体 3件
- 女性支援団体 ―― 2件
- 保護観察所 ―― 2件

■企業 ―― 4件

## 同行支援から見えてきたこと

必要に応じて役所や児童相談所、病院、警察等への同行支援を行っていますが、特に、性的搾取の被害にあったり、家出を繰り返していた少女たちが公的支援を受けることに高いハードルを感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、問題行動があるからと支援機関での受け入れを拒まれてしまうことがあります。

性虐待から逃れ、地方からやってきた女の子と警察に相談に行ったら「事件が起きた地元に今すぐ自費で帰って、そちらで被害届を出すように」と言われたり、ホームレス状態で性売買に関わり生き延びていた女の子が生活保護の申請をした際に役所から「うちでは現在地保護はやっていない」などと違法な説明を受けたり、虐待からの保護を求めた高校生を児童相談所が一時保護所に入れ、私語禁止のルールを破ったことなどから、「生活態度が悪い」と罰として体育館を100周させたこともあります。彼女たちに必要なのは、指導や管理ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、医療や教育、専門的なケアなどです。教育や福祉に関わる仕事に就く人の中にも、まだ理解者は少なく、少女たちの背景に目を向けられる大人を増やしたいと考えています。

相談者の状況によって、一時的な対応でいったん問題が和らぐこともあれば、中長期的な関わりが必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあったりする場合では、シェルターを出た後も、家探しから、大家への挨拶、住所変更手続きの手伝い、トラブル対応、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労、子育てに関してなど、生活全般を見守っています。

# アウトリーチ事業「TsubomiCafe」

開催数 33 回

声掛け人数 3,241 名

利用者数 593 名

**移動バスによる10代女子無料の夜カフェ。渋谷・新宿で定期的に開催しています。夜の街を巡回し、少女たちに声をかけ、繋がっています。**

## 夜の繁華街で出会い、声をかけ、つながる

週に一回、夜の渋谷と新宿・歌舞伎町で無料のバスカフェを開催しています。ピンクのバスとテントが目印のこのカフェでは、食事や飲み物、Wi-Fiや充電が無料。バスの中では、生活に必要な物品や衣類、コスメやコンドームなどを提供しています。

夜の街で少女たちを探し、声をかけるのは、性的搾取を目的とした人ばかりです。渋谷や新宿などの繁華街では、毎晩100人ほどのスカウトが街に立ち、少女たちに「どうしたの?」「仕事探してない?」と声をかけています。彼らは食事や宿泊場所を提供し、「衣食住と関係性」を与えるようにして近づきます。それは決して「セーフティネット」ではなく、商品として扱ったり、性的に搾取したりするための手段です。困っている子どもたちが支援につながる前に、危険に取り込まれています。

そこで、私たちは10代の女性たちに声をかけ、つながるアウトリーチ活動を行っています。Colaboのシェルターで暮らす10代を中心とするメンバーが「声掛けチーム」としてアウトリーチを担っています。「少し前の自分たちのような状況にいる子達に、Colaboのようなところがあることを知ってほしい」「変な男について行かなくても、力になってくれるところがあることを知ってほしい」と活動しています。

支援に繋がらない少女の中には、自分の困りごとに気づいていなかったり、あきらめ感が強かったり、自暴自棄になったりしている人が少なくありません。「大人に諦められた」と感じる経験をしていたり、自己責任論の中で「自分が悪い」と思い込み、声を上げられずにいる人もいます。「相談」や「支援」という言葉や行為に抵抗感を持つ人も少なくありません。

そのため、TsubomiCafeでは「相談」や「支援」を目的としない場づくりをしています。少女たちに利用してもらいやすいように、大人が「してあげる」場所ではなく、少女たち自身の場所として、気軽に立ち寄り、セルフサービスで、自由に過ごせる雰囲気を大切にしています。

この活動は、韓国の民間団体の実践を参考にし、開始した2018年10月から2019年度までに50回4,779名に声をかけ、805名が利用しました。

声掛けチームによるアウトリーチの様子

# 食事・物品提供

食事提供 1,364 食

物品提供 811 件以上

「難民高校生」 27 冊

**一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。お腹を満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。**

応援者の方からいただいた衣類、文具、生理用品、生活用品などを少女たちに贈っています。

出会った中高生や、学校や少年院で授業を聞いてくれた少女たちに仁藤の著書を贈っています。

## 「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。

困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少女たちの中に、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と思っている人は少なくありません。その結果、ひとりではどうにもならない事態に発展しているケースもあります。

私たちは、少女たちにまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくりたいと考えています。

「鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない」「誰かが料理している所を見たことがない」という人もいます。ある時「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。彼女は、妹たちと子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。「家に食べ物が何もない」と連絡があり、食料を届けることや、児童養護施設を退所した人、家族が頼れない状況にあるなどする全国各地の少女たちへの食品や生活用品の提供も行っています。Colaboに来ると、ご飯やおかずが持ち帰れるようになっていて、翌日の食事や冷凍保存用として、家族や恋人に持ち帰る人もいます。

食事の場は「相談」のハードルを下げることにもつながります。困ったときに「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「理解しようとしてくれる大人がいたら」という想いが込められています。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談してもらえる関係性をつくり、彼女たちがいつでも戻ってこられる「ホーム」の１つとなれればと考えています。

# 緊急時の保護・宿泊支援
# 一時シェルター

安心して過ごせる場所がない少女が一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。利用が数日に渡る場合は、中長期シェルターでの一時保護を行いました。

一時シェルター

日中利用 36/689 名 件

宿泊 15/30 名 泊

中長期シェルター（一時保護利用）

利用者宿泊数 11/704 名 泊

ホテル等、シェルター以外での緊急保護

利用者 5/15 名 泊

## 体を休め、落ち着いて考えられる場所を

安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてくるのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。2011年の団体設立時から、行き場を失った少年少女たちを代表仁藤の自宅に泊めていましたが、少女たちが気軽に立ち寄れて、自分たちで自由に過ごせる場所を作ろうと寄付を募り、2015年夏にシェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人のほか、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という人や、家出し見知らぬ人の家を転々とする生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所。

虐待や性暴力被害等からの緊急的な保護だけでなく、「今日は母親の彼氏が来るから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」「家ではゆっくり眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとしています。宿泊以外にも、日中のんびりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯機の利用も自由にできるようになっています。

必要に応じて、弁護士などの専門家と連携し、相談者が安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで利用した人の中には、里親のもとで生活をはじめたり、児童福祉施設に入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、現状の公的制度の中では安定した生活を手に入れられずにいる人も多く、2016年度から、中長期シェルターとして、10代後半～20代前半の女性のためのシェアハウスを始めました。

# 自立支援

シェアハウスとして運営する中長期シェルターでの住まいの提供や、生活支援、就労支援を行っています。

# シェアハウス・就労支援

第一
入居者 6名 / 退居者 4名

第二
入居者 5名 / 退居者 3名

第三
入居者 2名 / 退居者 0名

## ■シェアハウス（中長期シェルター）

中長期シェルターを「10代後半～20代前半の女性を支えるためのシェアハウス」として運営しています。各家には、鍵付きの個室が３部屋とリビングやキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、はじめの三か月は家賃無料（それ以降は月額利用料３万円～ですが、状況に応じて相談）。家具家電あり、お米食べ放題。

入居者の主体性を尊重し、ルールは毎月のミーティングで一緒に決め、食事やゴミ出しなどは自分たちで行います。

シェアハウスミーティングの様子

Colaboは彼女たちが主体的に生活を送れるようにサポートし、今後の生活に向けた計画を一緒に立てます。ここで暮らす間に、生活スキルを身に付け、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなど、それぞれの描く次の生活を目指します。2020年度は、既存の3物件9部屋に加えて、2物件6部屋増設し、5物件15人まで利用できるように計画しています。

## ■就労支援

就労を目指す少女たちに、資格取得や求人に関する情報提供や、面接の練習、履歴書の書き方講座、ハローワークへの同行などを行っています。Colaboと繋がりのある企業や商店等と連携し、アルバイトとして就労体験の機会をつくり、実際に就職に至ったケースもありました。今後も協力者や協力企業を増やしていきたいと考えています。

70回

- 情報提供 ―― 32回
- 就労体験 ―― 12回
- 仕事紹介 ―― 5回
- 退職手続き ―― 2回
- 履歴書の書き方講座 5回
- 面接練習 ―― 4回
- PC講座 ―― 4回
- 面接同行 ―― 3回
- 職場見学 ―― 3回

# サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。それぞれが自分の状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。

延べ参加人数 361名

参加者 29 名

活動件数 144 回

バスカフェでのアウトリーチ活動

沖縄合宿

夏祭り

講演会での発言

活動ミーティング

成人祝い

シェルター増設準備

## つながり、主体となって活動する

Colaboとつながる少女たちがつながり、共に過ごし、主体となって活動する場。同じような経験をし、悩んできた人たちと出会うことで自分の状況を整理し、向き合ったり、回復に向けたきっかけにもなっています。合宿や夏祭りなどの体験活動を通して社会問題について学んだり、誕生日や成人祝い、卒業や就職などのお祝いを一緒にしたり、クリスマスや年越しを一緒に過ごしたりしています。児童買春の実態を伝える「私たちは『買われた』展」など、経験や想いを伝える活動も行っています。2019年度からは、Youtubeの番組「のりこえねっとTV」で、セクハラ被害などの現状を訴え、問題を言葉にする番組『シリーズ　キモいおじさん』もスタートしました。

●アウトリーチ活動：Tsubomi Cafe運営準備、夜の街での声掛け　●伝える活動：企画展『私たちは買われた展』ミーティング・展示物作成、証言映像作成、講演会での発言、取材対応　●活動補助：シェルター増設準備、寄付物品仕分け・整理、事務作業、シンポジウム準備　●季節のイベント：誕生日会、入学・卒業・就職・成人祝い、お花見、夏祭り、ハロウィンボランティア、クリスマス会、遠足、イルミネーション鑑賞　●勉強会：映画鑑賞（『道草』、『風は生きよという』など）、展示会参加（あいちトリエンナーレ表現の不自由展、となりの宋さん写真展等）、憲法・労働問題ワークショップ、鍼体験　●合宿：沖縄合宿（ひめゆり記念資料館、辺野古ゲート前、美ら海水族館など）、熱海合宿（温泉、花火）、年越し合宿、新春合宿等

## あなたはどう思う？

（17歳・Kさん）

「それ本当の話なの？」いつも周りに言われる言葉だ。自分の今までされてきたこと、体験談を語るといつも信じてもらえない。本の中の話でしょ、嘘がうまいね。いつも私は嘘つきだと思われてしまう。毎度のことだから言われ慣れたつもりでも、やはり傷つく。そんな、本の中やドラマの中にありそうと言っている出来事が、実際に起こっている。そのような、追い込まれる環境にしたのは自分なのか？よく周りの大人は「もっと他に努力するべき所がある」と言ってくるが、このような状況におかれている私たちは、数少ない選択肢の中から選んで日々我慢し、耐えて乗り越えている。

私は中学の時に親から虐待を受けた。家にも入れない、お風呂にも入れない、洗濯もさせてもらえない、ご飯も食べられない。そんな日々が何年も続いた。児童相談所の大人も信じてくれず、助けてくれなかった。私はその時から、誰も信じられなくなってしまった。本当は、誰かに助けてもらいたかったし甘えたかった。愛されたかった。私以外にも、同じように虐待を受けていた子がいた。その子は耐えきれず、電車に飛び込んで自殺してしまった。

なぜ、周りの大人たちは見て見ぬふりをするのか。他人ごとにして助けてくれないのか。私には、自殺に追い込まれるまで大変つらい思いをしている子どもたちが沢山いるのに、平気な顔でいられる大人たちの神経が理解できない。少しでも信じてくれる大人が増えて欲しい。助けるために行動してくれるような大人が増えて欲しい。

私だって普通の生活がしたい。今では普通が何かもわからない。そのような環境に追い込んだのはいったい誰なのか。もう少し子どもの気持ちを考えて欲しかった。つらい思いをして苦しんでいる子どもが、少しでも減ることを私は願っている。

あなたはどう思いますか？

# 企画展「私たちは『買われた』展」

各地で企画展を
開催したい団体を募集中

パネル貸出しについては
お問合せください

| 開催数 | 開催日数 | 来場者数（約） |
|---|---|---|
| 5 箇所 | 13 日間 | 1,712 名 |

企画展参加メンバーと

**企画目的**　中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14〜26歳まで28人のメンバーが立ち上がり、写真や体験談、手記、日記「大人に伝えたいこと」をテーマにした作品を作成しました。メンバーは増え2019年度は36名が展示に参加しました。

2019年度は東京、台湾、埼玉、北海道で開催し、2016年8月のスタートから計22箇所で84日間開催、11,626名の方にご来場いただきました。

**売春している中高生について、どんなイメージを持っていますか？**

ある大学の授業で学生たちに投げかけると、こんな言葉が返ってきた。

—快楽のため
—愛情を求めて
—その場限りの考えで
—遊ぶお金がほしいから
—優越感に浸るため
—自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
—正直、そんな人と関わりたくないと思う
—どうしてそこまでやれるのか、理解できない

当事者のAは言った。

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。もう、そんなことでは傷つけなくなった。」

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し「イメージを変えたい！」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」（16歳・高校生）

「親も頼れる大人もいない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもしないと、生きられなかった。」（20歳・高校生）

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」（15歳・中学生）

日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることにも気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と性搾取の被害に遭っていることを相談してくれる少女たちとの出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていった。自分を責めていた。変わることも、抜け出すこともできないと思った」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10〜60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

**2019年度主催団体（開催日順）**
八王子手をつなぐ女性の会（東京）、第4回世界シェルター会議in台湾、kokokara ねっと（埼玉）、一般財団法人函館YWCA（北海道）、浄土真宗本願寺派築地本願寺（東京都）

私たちが、いま、
ここに生きていることを知ってほしい。

# 啓発事業

「少女たちの置かれた現状」「性的搾取の問題について」「女性の人権」「関係性の貧困」「SNSの危険」など、10代を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。夜の街歩きツアーでも、少女たちを狙う危険や現状を伝えています。

講演会 25 回

参加者 2,751 名

講演依頼を受け付けております。
HPからお問合せください。

- 講演・ワークショップ
- 夜の街歩きスタディーツアー
- アウトリーチ支援者養成講座

「最近の若者はわからない…」
「私たちにできることはあるの？どう関わればいいの？」
一緒に考えてみませんか。

## 中高生向け

テーマは、家族関係、友人関係、居場所、進路選択、ＪＫビジネスや性について、ＳＮＳの使い方や危険、国際協力や被災地での活動、貧困問題について等幅広く、中高生の目線に合わせてお話ししています。講演会をきっかけに、相談支援につながったり、教員など身近な大人にＳＯＳを上げる生徒も少なくありません。

## 大人向け

今、日本の中高生はどのような状況におかれているのか。活動の中から見えてきた実態をお話しします。テーマは、女性の人権、虐待、貧困、高校中退、不登校、子どもの居場所、性暴力、インターネットの危険等、さまざまです。困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、その背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

### 2019年度 講演実績（一部、敬称略・順不同）

■行政・公的機関　新宿区/世田谷区青少年委員会/神奈川県生活保護課/さいたま市子ども家庭総合センター/上田市人権男女共生課/箕面市人権啓発推進協議会/広島県警察少年補導協助員連絡協議会連合会/こうち男女共同参画センター

■民間団体　全国児童養護施設問題研究会/日本弁護士連合会/総合社会福祉研究所/性暴力被害者支援センター・ひょうご/浄土真宗本願寺派築地本願寺/函館YWCA//富山県女性財団/中野区更生保護女性会/つくろい東京ファンド/四谷ロータリークラブ/kokokaraねっと埼玉/第４回世界シェルター会議in台湾

■教育関係　神奈川県高等学校教職員組合平塚支部/川崎市立学校保健連絡協議会研修会/大分県教職員組合

■学校・少年院（生徒向け）　一橋大学/静岡県立大学

### 第４回世界シェルター会議in台湾で、講演と企画展を開催しました。

2019年11月にアジアで初めて開催された世界シェルター会議。Colaboもブースでの展示と講演を行いました。「私たちは『買われた』展」メンバーの証言などを英訳し、日本の性的搾取の現状を伝えました。世界各地の方々から、日本の少女たちへの連帯のメッセージをいただきました。

### 「10代少女たちをどう支えるか-日韓の実践から当事者主体の支援のあり方を考えるシンポジウム」を開催しました。

現在の日韓両社会では、少女に対する性暴力や性搾取の深刻な状況が広がっており、民間団体による支援の取り組みが続いています。韓国ではバスによるアウトリーチや、大人が管理しない住まいの提供、10代の「同世代相談員」による活動などを通じて、当事者主体の取組みを発展させてきました。これまで、Colaboは韓国の団体と交流し、活動を広げてきました。2018年には、ソウルで「私たちは『買われた』展」の日韓展を開催しました。2019年12月に開催した本シンポジウムでは、韓国の活動家と、当事者の少女たち、Colaboで活動する10代のメンバーとともに、当事者主体の支援のあり方を考えました。韓国から3団体の活動家と少女たちが来日し、日韓の少女8名による当事者としての発言・発表もありました。シンポジウム以外にも、バスの活動を共にしたり、韓国の少女たちのシェアハウスへのホームステイなどを通して議論や交流を深めました。

# 夜の街歩きスタディーツアー

夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。
目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。
普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。
8名以上での申し込みで、お好きな日程で調整可能です。

■参加者：教員、保護者、児童福祉、医療、警察、行政関係者、弁護士、議員など

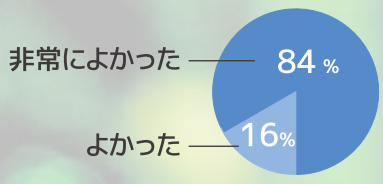
開催数 15 回

参加者数 124 名

参加者募集中！
参加希望の方は、HPよりお問合せください。

## ツアー参加者の満足度

（アンケート回答者36名）




・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた ――100%
・これまで気づくことのなかった現状を知れた ――100%
・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった ―78%

## 参加者の声

**―今まで、自分が見ようとしないことで、現実を受け止めていなかったと痛感しました。**

意識して歩かないとわからない現状を知ることができました。関心を持たないことによって、近くにあるのに気づかずにいた現状に、おそろしい気持ちになりました。自分ができることを考え、行動しようと思いました。要所要所で説明をしてくれたので、より一層わかりやすくあっという間に時間が経ちました。現実として受け止めることができました。（40代女性　高校教員）

**―若い女性たちを大人たちがいかに食い物にしているか、まざまざと感じました。**

この社会を作っている大人の責任について考えさせられました。また、支援するには女の子たちが何を求めているのか、どんなことを感じているのか知ることが大事であることがよくわかりました。私は行政の立場で仕事をしているので、弱い立場にある人たちを踏みつけるのでなく、尊重する社会を作っていけるよう、できることをしていきたい、私たちが変えていかなければと思いました。向き合う機会になりました。（40代女性 公務員）

**―私が普段仕事にしている福祉や教育は、届けたい人にこそ届いていないという実態がよくわかりました。**

これまで頭で理解していたつもりでいましたが、実際に目の当たりにすることで、問題の重大さを実感しました。参加して本当によかったです。また、仕事のみでなく自分の日常の行動もこの問題と地続きであることがわかりました。これまで女の子たちが商品化されている様子を見て、違和感はなんとなく感じていましたが、それを言葉にすることや周りの人と話すことはありませんでした。
ツアー以降、周りの人と話すようになりました。自分にできる支援を具体的に検討していきます。（30代女性　会社員）

## アウトリーチ支援者養成講座

街歩きスタディーツアーの参加者のみにご案内しています。座学やワークショップ、「家出体験」などを通して、中高生達が夜の街に出る背景を想像し、気持ちに寄り添えるようになることを目的とした研修です。一人ではなかなかできない家出体験や研修を通して、どんな声かけや支援が必要か、自分の役割・できることは何か、一緒に考えます。研修を修了された方を対象に、アウトリーチ活動へのボランティア募集情報をご案内します。開催情報はお問い合わせください。

# メディア掲載（一部）

## テレビ・ラジオ

2019年

12月 TBS・NEWS23「“SNS誘拐”、狙われた居場所のない少女たち」
NHK・ハートネットTV「性暴力1 私の画像を消してください 広がるデジタル性被害」

## 新聞

2019年

4月 民医連新聞4月号「安心できる衣食住届けたい」
毎日新聞「令和、こんな時代にしたい 平成元年生まれの私たち」

5月 毎日新聞「障害者 性暴力の標的」

2020年

1月 しんぶん赤旗「10代支える日韓交流」
神奈川新聞「10代の女性どう支える」

2月 高知新聞「居場所のない少女 気に掛けて」

3月 都政新報「困っている少女に居場所を」

## 雑誌

2019年

8月 THE BIG ISSUE JAPAN VOL.364
「“ホームレス”の本来の意味は「安心して暮らせる住まいがない」こと」

2020年

1月 THE BIG ISSUE JAPAN No.375
「若者たちへ。「あなたはその存在だけで価値がある」」

3月 Seventeen4月号「親がしんどいと思うあなたへ」

## 書籍

2019年

10月 「世界中の子どもの権利をまもる30の方法」（国際子ども権利センター＋甲斐田万智子編・合同出版）

11月 POSSE Vol.43「拡大する中高年の貧困問題」（堀之内出版）

12月 「平成をあるく」（共同通信社編）

## 機関誌

2019年

6月 月刊福祉6月号「困難な状況にある少女とともにあゆむ」
Women's Human Rights Institute of Korea「여성과인권「일본의 여성 청소년 성착취 현황　여성 청소년과 함께 목소리 내기(韓国女性人権研究所「日本における少女の性的搾取の現状ー女子中高生とともに声を上げる」)」

7月 しぶや区ニュースNo.1416「若者たちのSOSに向き合う」
ひろばユニオン7月号「少女たちのSOSを拾い続けて」

8月 手をつなぐ2019年8月号
「少女たちが性的に商品化され、消費される日本社会に立ち向かう」

9月 女のしんぶん
「私の街で、あなたの街で「私たちは『買われた』展」を」

11月 福祉のひろば2019年11月号
「少女たちの目線で、生きる希望やいのちを支える」

12月 更生保護 2019年12月号
「支援につながる前に、危険に取り込まれる少女たち」

2020年

1月 サンフォルテたよりVol.114
「関係性の貧困を生きる少女たち～安心できる居場所と社会を～」

## WEB

2019年

4月 東京アンブレラ基金「今日、帰る家がない10代の少女たち。虐待や生活困窮のなかで「助けて」と言えない声を拾いたい」

6月 The Guardian「Schoolgirls for sale: why Tokyo struggles to stop the 'JK business'」

7月 ライフネットジャーナルオンライン
「ピンク色のバスは安心のランタン ――行き場のない少女たちのシェルター／困難を抱えるすべての少女に「当たり前の日常」を。」

2020年

3月 Business Insider Japan「性的虐待、ネグレクト…10代少女たちが新型コロナ「外出自粛要請」に怯える理由」
のりこえねっとTV「シリーズ キモいおじさん第1回セクハラおじさん」

詳しくは下記サイトへ
ダウンロードや記事を閲覧できるものあります
**http://www.colabo-official.net**

# 2019年度 会計報告

## 活動計算書

自 平成31年 4月 1日 至 令和2年 3月31日 ［税込］（単位：円）

| | | | |
|---|---|---|---|
| **【経常収益】** | | | |
| 【受取会費】 | | | |
| サポーター会員受取会費 | | 3,642,000 | |
| 【受取寄付金】 | | | |
| 受取寄付金(個人) | 8,060,144 | | |
| 受取寄付金(企業団体) | 909,114 | 8,969,258 | |
| 【受取助成金等】 | | | |
| 受取助成金 | | 19,930,794 | |
| 【事業収益】 | | | |
| 相談事業収益 | 1,599,900 | | |
| 巡回事業収益 | 8,060,640 | | |
| 基礎的支援事業収益 | 7,252,484 | | |
| 居場所づくり事業収益 | 1,771,160 | | |
| 自立支援事業収益 | 1,700,893 | | |
| 情報提供事業収益 | 3,077,860 | | |
| 支援者養成事業収益 | 905,000 | 24,367,937 | |
| 【その他収益】 | | | |
| 受取 利息 | 314 | | |
| 雑 収 益 | 297,216 | 297,530 | |
| **経常収益 計** | | | **57,207,519** |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **【経常費用】** | | | |
| 【事業費】 | | | |
| （人件費） | | | |
| 給料 手当(事業) | 9,430,348 | | |
| 法定福利費(事業) | 1,143,415 | | |
| 通 勤 費(事業) | 358,122 | | |
| 人件費計 | 10,931,885 | | |
| （その他経費） | | | |
| 売上 原価 | 330,224 | | |
| 給 食 費 | 1,315,458 | | |
| 衛 生 費 | 4,858 | | |
| 教 養 費 | 401,515 | | |
| 業務委託費(事業) | 569,559 | | |
| 諸 謝 金 | 216,000 | | |
| 印刷製本費(事業) | 4,700 | | |
| 会 議 費(事業) | 217,760 | | |
| 旅費交通費(事業) | 2,840,318 | | |
| 車 両 費(事業) | 284,710 | | |
| 通信運搬費(事業) | 543,111 | | |
| 消耗品 費(事業) | 1,540,351 | | |
| 消耗什器備品(事業) | 482,884 | | |
| 水道光熱費(事業) | 631,852 | | |
| 地代 家賃(事業) | 2,241,552 | | |
| 賃 借 料(事業) | 9,900 | | |
| 広告宣伝費(事業) | 16,110 | | |
| 接待交際費(事業) | 153,864 | | |
| 新聞図書費(事業) | 33,420 | | |
| 減価償却費(事業) | 3,078,036 | | |
| 保 険 料(事業) | 71,590 | | |
| 租税 公課(事業) | 834,912 | | |
| 支払手数料(事業) | 295,689 | | |
| 支 援 費 | 1,717,111 | | |
| 雑 費(事業) | 717,398 | | |
| その他経費計 | 18,552,882 | | |
| 事業費 計 | | 29,484,767 | |
| 【管理費】 | | | |
| （人件費） | | | |
| 給料 手当 | 5,594,229 | | |
| 法定福利費 | 563,696 | | |
| 通 勤 費 | 409,945 | | |
| 人件費計 | 6,567,870 | | |
| （その他経費） | | | |
| 業務委託費 | 906,795 | | |
| 印刷製本費 | 221,240 | | |
| 会 議 費 | 79,468 | | |
| 旅費交通費 | 111,415 | | |
| 通信運搬費 | 429,461 | | |
| 消 耗 品 費 | 273,493 | | |
| 消耗什器備品費 | 204,000 | | |
| 水道光熱費 | 88,033 | | |
| 地代 家賃 | 1,084,568 | | |
| 接待交際費 | 10,476 | | |
| 保 険 料 | 11,840 | | |
| 諸 会 費 | 64,250 | | |
| 租税 公課 | 11,600 | | |
| 研 修 費 | 91,335 | | |
| 支払手数料 | 1,025,077 | | |
| 雑 費 | 500 | | |
| その他経費計 | 4,613,551 | | |
| 管理費 計 | | 11,181,421 | |
| **経常費用 計** | | | 40,666,188 |
| **当期経常増減額** | | | **16,541,331** |

| | |
|---|---|
| **【経常外収益】** | |
| **経常外収益 計** | 0 |
| **【経常外費用】** | |
| **経常外費用 計** | 0 |
| **税引前当期正味財産増減額** | **16,541,331** |
| **法人税、住民税及び事業税** | **70,000** |
| **当期正味財産増減額** | **16,471,331** |
| **前期繰越正味財産額** | **48,062,001** |
| **次期繰越正味財産額** | **64,533,332** |

※繰越正味財産額のうち、2018年度に積み立てた「シェルター居場所増設職員雇用積立金」2,000万円からシェルター物件購入に1,000万円を活用しました。今期新たに1,000万円を積み立て、同積立金の合計金額は2,000万円となっています。

## ■団体概要

| | |
|---|---|
| 名 称 | 一般社団法人Colabo |
| 設 立 | 2011年5月 （2013年3月に法人格取得） |
| 役 員 | |
| 代表理事 | 仁藤 夢乃 |
| 副代表理事 | 稲葉 隆久 |
| 理 事 | 奥田 知志（牧師、NPO法人抱樸 理事長） |
| | 川村 百合（弁護士） |
| | 齋藤 百合子（大学教授） |
| | 細金 和子（婦人保護施設慈愛寮 元施設長） |
| 監 事 | 中村剛（弁護士） |

# 会員・寄付・物品応援

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

必要としているものをすぐにご支援くださり、ありがとうございました。
感謝は少女たちと日々を重ねることで、お返しさせていただきます。

## ♥サポーター会員　440名(364万2,000円、607口)

## ♥資金寄付

●個人の方から　198名(361万3,100円)
●企業・団体から　11件(70万6,000円)
●ソフトバンクつながる募金を通しての寄付145件(20万3,114円)

## ♥プロジェクトへの寄付

●『難民高校生』を贈ろう　11名25冊分(5万円)
●シェルター増設サポーター　93名205口（205万円）
2019年度、シェルター増設のための物件取得費を寄付で支えてくださった方々。
・1口：65名／赤渕淳心様、稲塚由美子様、大澤里美様、金昌浩様、小関玲子様、白濱綾子様、新宿区更生保護女性会 代表 坂本悠紀子様、新日本夫人の会　山口県小郡支部・有志様、関沢昌子様、田中雅子様、田部井杏佳様、冨永三友紀様、仲川啓介様、平岩純子様、廣瀬明友子様、降幡めぶき様、増山道康様、松井かおり様、松田洋子様、水田英明様、宮本徹様、三輪文恵様、Y・Y様、他 42名様
・2口：10名／Y・K様、林美子様、N. Frances Hioki様、他 7名様
・3口：10名／小田原琳様、唐神里佳様、國塚道和様、かたつむり構造様、他 6名様
・5口：6名／S・K様、A・N様、新谷ちか子様、他 3名様
・50口：1名様

## ♥講演会・企画展会場での募金箱への寄付 68万2,766円

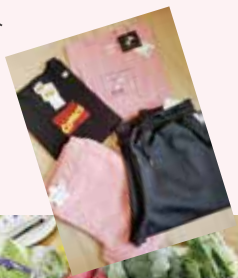
## ♥物品寄付　109万6,089円分

(Amazon欲しいものリストからの寄付等金額換算できるもの)

## ♥切手、金券　14万8,189円分

## ♥シェルターオーナー

12名の方に14日分、42万円の運営費を支えていただきました！
・1日オーナー10名／Y・K様、一般社団法人MIJW-水戸発夢を叶えるプロジェクト代表理事 中井川正男様、他 8名様
・2日オーナー2名／S・K様　他 1名様



## ♥助成金で支えていただきました！

●孤立困窮した青少年に対するアウトリーチ・自支援モデルの構築
・社会福祉法人中央共同募金会「赤い羽根福祉基金」980万円
●困難を抱えた女子に対するアウトリーチ、緊急一時保護事業
・JT「NPO助成」150万円
・中央ろうきん「若者応援ファンド2019」100万円
●緊急一時宿泊支援費
・つくろい東京ファンド「東京アンブレラ基金」23万7,000円
●虐待、性犯罪被害女子の保護・自立支援及びシェルター運営事業
・公益財団法人日工組社会安全研究財団「広域安全事業助成」250万円
・公益財団法人お金をまわそう基金「子ども支援分野」249万3,794円
●中長期シェルター増設のための改修工事
・丸紅基金「社会福祉助成金」200万円
●日韓の支援実践から学ぶ、夜の街をさまよう青少年へのアウトリーチと支援に関するシンポジウムの開催
・公益財団法人倶進会「一般助成」40万円

## ♥お弁当・食品提供で支えていただきました！

・セカンドハーベスト・ジャパン様
・観音山フルーツガーデン様

## ♥以下の物品をご寄付いただきました

・書き損じハガキ、未使用切手：郵送費として使用します。
・図書カード、商品券、カタログギフト：少女へ贈ったり、物品購入に使用します。
・テレフォンカード：緊急連絡用として少女に渡します。
・電子機器（iPhone、ノートパソコン等）：相談用に使用したり、少女へ提供します。
・制服、衣類、日用品（生理用品、リップクリーム、制汗剤、メイク用品など）：少女に贈ります。
・食品：少女に贈るほか、食事提供支援で使用します。
・農産物：お米や果物、お肉、野菜等の定期的なご支援を歓迎します！
・Amazonほしいものリストからも、たくさんのご支援をいただきました！飲食料品、調理器具、掃除用品、家具、家電、寝具、書籍など

# ご支援のお願い

Colaboの支援方法について

ご支援よろしく
お願いいたします！

HP「ご支援のお願い」

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。
サポーター会員や、シェルターオーナーになって活動継続のための
仲間になってください！

## サポーター会員　年会費／１口：6,000円

私たちの理念・活動に共感いただいた方に、1口6千円／年からの会費で活動を支えていただいています。
会員の方々の支えがなければ、活動を継続できません。
ぜひ入会し、活動を共につくる仲間になってください！

●会員特典：活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

## 『難民高校生』を贈ろうプロジェクト　１口：2,000円

中高生や少年院で出会う少女たちに仁藤の本を贈っています。1口で１人の少女に届けることが出来ます。

## シェルターオーナー　１口：30,000円

1口で1日運営する費用がまかなえます。365日開設を目指し、支援を募っています。

## 活動資金の寄付

口座振り込み、またはクレジットカードでのお支払いが可能です。

### ●クレジットカード・口座振込による寄付

Colaboに直接ご寄付いただけます。
活動全般を支える資金のご寄付で
応援お願いいたします！

**■ゆうちょ銀行**
(ゆうちょ銀行〈振替先選択で「記号番号」から振込の場合〉)
記号）１０１５０
番号）９１８２９８０１
名義）イッパンシャダンホウジンコラボ

**■ゆうちょ銀行**
(他金融機関・ゆうちょ銀行〈振替先選択で「店名」から振込の場合〉)
店名）〇一八（ゼロイチハチ）
店番）０１８
口座）普通 ９１８２９８０
名義）イッパンシャダンホウジンコラボ

**■三菱UFJ銀行**
渋谷中央支店
口座)普通 ０３６３４４８
名義）イッパンシャダンホウジンコラボ

### ●つながる募金

↑ Softbankのスマホからご利用料金とまとめて寄付

つながる募金

ソフトバンクのスマホやPCから、携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができます。ソフトバンクスマホをご利用の方限定でＴポイントでの寄付も可能です。

← どなたでも可能
（クレジットカードで寄付）

## 食品・物品の寄付

随時必要な物をHPに掲載しています。
送付先はお問い合わせください。

## ほしいものリストからの寄付

サイトに必要としている物品を掲載しています。
Amazonからの購入でColaboに届く仕組みです。
**http://goo.gl/24g9zt**

## 2020年度Colaboスローガン「一人ひとりが、活動家」

私たちは、創設時から、少女たちを「支援対象」としてではなく、共に声を上げ、社会をつくる主体であり、仲間と考えてきました。支援する／される関係ではなく、共にあることを大切にし、一人ひとりの主体性を尊重しながら、共に歩き、共に道をつくってきました。
Colaboの活動は、当事者運動です。Colaboとつながる少女たちや、すべてのスタッフ、ボランティア、寄付者の方々が、社会を変える当事者だと考えています。
支援に関わるスタッフも、事務局スタッフも一丸となり、一人ひとりが社会を変える当事者として、ボランティアさんや寄付者の方々に支えられながら、これからも活動していきます！

# 応援メッセージ

私たちも応援しています！

## 小島 慶子　エッセイスト

「外をふらついているのは素行の悪い子どもなのだから犯罪に巻き込まれても自業自得。性的搾取や性暴力の被害にあっても自己責任。そもそも本人が遊ぶお金欲しさに望んでやっていることなのでは？」こんな意見を、あなたはどう思いますか？街にしか居場所のない子どもたちがいます。経済的な事情や、家庭でのネグレクトや暴力など、様々な理由で帰る場所のない子どもたちがいます。身を守るための知識がなく、頼れる人もいない子どもたちを利用したり、買ったりする大人たちが後を絶ちません。そんな子どもたちが頼れる場所を増やそうという仁藤さんの取り組みに賛同します。

## 稲葉　剛　立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事

相談窓口を作って、待っていても、支援を必要としている人はなかなか来てくれない。これは経済的な貧困や社会的な孤立など、様々な困難を抱えた人たちを支える活動の中で、幾度となく言われてきたことです。なぜなら、「誰かに相談をして、助けてもらえた」という経験を持ったことのない人は、相談をすることによって自分の状況が良くなると思えず、窓口まで足が向かないからです。では、どうすればいいのか？待ちの姿勢をやめて、彼ら彼女らのもとに出かけていくこと。それがアウトリーチと呼ばれる活動です。居場所がなく、夜の街をさまよう子どもがいれば、自らそこに出かけていく。仁藤夢乃さんたちはこれまで地道なアウトリーチを続けてきました。2019年春、Colaboとも協働し「東京アンブレラ基金」を立ち上げました。都内のさまざまな団体が「今夜、行き場がない」人に「緊急宿泊支援」を実施した際、費用の一部を補助する仕組みです。Colaboの活動を応援し、さらに連携を進めていきたいと考えています。

## 麻木久仁子　タレント・国際薬膳師

貧困、虐待、暴力、人間関係など様々な理由で安心安全な居場所を失い、社会からその存在を切り離され、街を彷徨うことを余儀なくされている少女たちは、心も体も傷ついています。自分が受けた傷や被害の責任が自分にあるかのように感じることも多いそうです。こうした少女たちの自尊心は、深く深く切り裂かれてしまうことでしょう。仁藤夢乃さん率いるColaboは少女たちの隣にいて、同じ時代に同じ街で生きる「仲間」として手を差し伸べています。かわいそうだから助けるというよりも、仲間だから支えるということ。現実的な自立の手立てを提案すると同時に、ゆえなく傷つけられた自尊心を回復するということ。仁藤さんの揺るぎない信念を感じます。そんなColaboに共感し、心から応援します。

©Keiichi SUTO

## 桐野 夏生　作家

仁藤夢乃さんとColaboの、街にバスを出すという素晴らしいアイデアに、心底感心しました。実際に街に出て行って、居場所のない、そして行き場のない少女たちに、手を差し伸べること。それも一時的な支援ではなく、彼女たちの心を引き受けること。言葉にするのは簡単でも、それがどんなに大変で、責任のある仕事であるかは、やってみないとわからないことです。私は、仁藤夢乃さんの信念と行動力に、心から尊敬の念を持っています。そして、でき得る限り、支援していきたいと思っています。

## 水原 希子　俳優

ふと目に留まった仁藤夢乃さんのツイートをキッカケに、Colaboの存在を知りました。家族から虐待など、様々な理由で身に危険を感じ、家に帰る事ができずに居場所を失った女の子達は、性被害の恐怖にさらされる。そんな女の子達に夜の街にバスとテントを張り、自ら声をかけてサポートをしているColaboの活動に感銘を受けています。そして今、コロナの影響で虐待の増加、そして性被害に巻き込まれてしまっている女の子達が増えている現状があります。こんな辛い事に巻き込まれてしまう女の子達を1人でも無くしたい。私も自分の活動を通して、1人でも多くの女の子達が安心して過ごせる様に、彼女達の未来のために一緒に立ち上がります。引き継ぎ、Colaboの活動を応援しています。

## 安藤 優子　フジテレビ系「直撃LIVEグッディ！」メインキャスター

仁藤さんの少女たちを助けるための活動のすごいことは、常に発想が徹底して少女たちの目線、立場にあることです。そしてきわめて現実的です。少女たちがなぜ自らを危険な目にさらさなくては生きていけないのか、どうしてそうなってしまったか、そんな少女たちがほんとうに必要としているものはなにか、彼女は過去の体験から同じ目線で寄り添いながらその答えを見つけようと頑張っています。私は仁藤さんたちのチャレンジ、活動を応援いたします！

## 松本 俊彦　国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

私はこれまで精神科医として、たくさんの「自分を傷つけずにはいられない」少女たちと出会ってきました。彼女たちは夜の街をあてどなく漂流し、様々な危険な目に遭いながら、いつ死んでもおかしくない生き方をしていました。そして、みんなきまって助けを求めるのがとても下手くそでした――一番しんどい状況のときには病院に姿を見せず、嵐が過ぎ去って少しだけ楽になった頃に、「すごく大変だった」と報告しにやってくる――そんな感じです。それでも、来てくれるのはよいのです。気になるのは、途中からずっと姿を見せないままでいる子たちです。あの子たちは今どこで何をしているのか――。こうした少女たちを救うには、病院や行政だけでは不可能です。夜の街に直接出向き、彼女たちと同じ目線、同じ言葉で語りかけ、手を差し出してくれる人が必要です。私は、そのようなColaboの活動を応援しています。

©Maki Ishii

## 石内 都　写真家

少女という一瞬をどうやっていきるのか、 すべての女にとって大きな通過点だ。 少女は常に分断され孤立し、いたぶられる。 それをはねのける力は一人の少女の中には無い。家族も社会も国家も少女を一人の人間としてみていない。その少女を理解出来るのはかつて少女だった私達だ。 少女が少女であるがまま自然でいられるように。

## 横田 千代子　婦人保護施設いずみ寮寮長／全国婦人保護施設等連絡協議会会長

Colaboの存在・働きは、居場所を失った女性たちにとっては心強い味方です。私たちも女性支援をしていますが、行政機関（女性相談センター）で措置された女性たちのみの支援です。根拠法を売春防止法として設置されている「婦人保護施設」です。私たちは居場所のない女性たちを直接支援することが出来ません。いつも歯がゆく思っています。Colaboの活動も、本来、私たちが踏み出さねばならない事業だと思います。行政の後ろ盾もなく今にある活動まで積みかさねられた働きに心から敬意を表します。「受け止めてくれる場所がある」「今晩一晩泊まれるところがある」大事な支援です。被害から身を守ります。Colaboの働きと連携できるシステムが欲しいです。小さな灯が大きな社会の動きにつながる日を待ち望み、祈ります。

村上龍氏推薦！

2016年、ちくま文庫から文庫化されました！

## 難民高校生

絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル

仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす"難民高校生"だった。
―家庭・学校のつながりを失い、渋谷を彷徨っていた中高時代。やりたいことも夢も失くし、学校を中退。妊娠、中絶、DV、リストカット、自殺未遂…。私の周りには、そんな子がたくさんいた。人生に絶望した私の前に現れたのは、一人の講師だった―

英治出版　￥1,500円（税別）
ちくま文庫　￥780円（税別）

台湾でも翻訳版が出版されています！

## 女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地域は安全だ」そう思っている大人にこそ、読んでほしい。「女子高生」を狙うＪＫ産業で働く少女たちの身に何が起きているのか。少女たちの本音から、解決策を探る。

光文社新書
￥760円（税別）

## 会員になって活動を支えてください！

年6000円（月500円）から継続的に活動を応援していただくサポーターを募集しています。
私たちの理念・活動にご共感いただいた方、ぜひご支援よろしくお願いいたします。

●会員特典
①女の子の想いや日々の活動を伝えるColabo通信をお届け（不定期）
②活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

## 『難民高校生』を贈ろうプロジェクト

居場所がない、生きる希望がない、頼れる人や相談できる人がいない、性暴力を受けている、いじめ、虐待、ネグレクト、親や教員とすれ違いの日々…そんな高校生たちに、本『難民高校生』を贈りませんか？

●1口: 2,000円で、1人の高校生に、『難民高校生』を届けられます！本には、仁藤からのメッセージを入れ、高校生に贈らせていただきます。

## シェルターオーナーになりませんか？

虐待などを背景に少女が家に帰ることができない、家にいられないとき、駆け込める場所として開設しています。シェルターは、みなさまからのご寄付で運営しています。1口で1日の運営費をまかなえます。オーナーとして、ご希望の方は報告書にお名前を掲載させていただきます。ご支援よろしくお願いします。

●1口: 30,000円 …1口で、シェルターの1日オーナーになることができます。365日開設を目指し、支援を募っています。

## 家にいられない、帰るところがないとき、ホテルに無料で宿泊できます。

非常時には女性や子どもへの暴力が深刻化しますが、新型コロナウィルスの影響が長期化していることから、少女たちも普段に増して苦しい状況に追いやられています。相談が急増する中、2020年度から、ホテルの協力により緊急ステイ先を確保し、支援体制を広げています。

Twitter

@colabo_official

Instagram

@colabo.official


Colabo
一般社団法人 Colabo

講演のご依頼、お問い合わせはこちらから
http://www.colabo-official.net
メール：info@colabo-official.net
スマホ・携帯はこちらから